

● 事業のきっかけ

「魚のつかみどり大会」は、菊水校区ふれまち委員長が、就任後まもなく発案しました。委員長はボーイスカウト指導経験者。「地域には新湊川があるのに、子どもたちは川で遊ぶことを禁じられている。ぜひ、川遊びの楽しみや自然の怖さを地域の子もたちにも体験させたい。」と、新湊川での「魚のつかみどり大会」を夏休みに開催しました。川を約20メートル分仕切り、子どもたちが流れの中で魚を捕まえます。今年で13年目を迎え、リピート参加も多数。毎年多くの申し込みがあります。

● UDのポイント・地域特有の取組

当日は、川に向かう前に、地域福祉センターで、ふれまちから参加親子へ諸注意。子ども約80人、保護者約40人。参加ルールに加え、捕えた魚は塩焼・フライなどでおいしく食べられること、不要な場合は人に譲ることなども伝えられました。当行事を通じて、大人も子どもも、社会のルール、命の大切さを学んでもらうことが狙いです。家での調理が食育になることも期待しているそうです。

川へ移動して、いよいよ魚つかみ。子どもは、4歳から小学生6年生まで幅広く募集しているので、みんなが安心して楽しめるように、低学年以下と高学年のグループ別に、また、小学生未満の幼児は保護者同伴で魚つかみをします。子どもたちも、見守る大人たちも大盛り上がりでした。また、捕れなかった子どもたちには、最後に魚の配布の配慮も。安全面では、足元がおぼつかない子どもたちが滑らないように、川に降りる階段から会場までの経路と、会場の川底は、前の週と当日朝に念入りに磨かれて、最後まで滑って転ぶ子どもはありませんでした。

● 期待されるUDの効果

「ふれまちならではの動員力で実現している大がかりなイベントで、ボランティア側も参加者から元気を得て、やりがいのある行事。リピート参加もあり、参加者に好評であるが、母親の参加が中心なので、今後は、もっと父親の参加が増え、地域活動へもつながってほしいと期待している。」と委員長。また、この行事を通じて、参加親子同士、ボランティアの方たちとの交流が図られるほか、地域のお年寄りが遠方の孫のために申込み、当行事を機会に親子の里帰りが増えるなど、行事の場を離れたところにも交流が広がっています。

<「魚のつかみどり大会」今昔>

当行事は、当初、川の利用許可や学校の了解、予算内での魚や土嚢の調達などに苦労し、実際行方際にも、水のせき止め方、魚が逃げない工夫、幼い子どもたちも参加できるしくみなど、試行錯誤の連続だったそうです。13年目を迎えた今は、学校を通じて行事の案内ができていて、川を仕切る技術も向上、土嚢の準備には建設事務所の協力があり、1週間前の事前清掃や当日のボランティアなどは、ふれまち、青少協を中心に学校、PTA、区役所の約40人も協力も得られて、年々レベルアップしています。



まずセンターで諸注意



魚はどこかな？



1週間前の清掃



菊水校区ふれまちでは、日常、子どもを中心とした活動も数多く企画されており、地域を巻きこんでの活動には長い間の実績が今に生きていると思う。魚つかみでは、当日子どもたちが楽しんで魚つかみができるように、事前準備の大変な作業が、たくさんの地域の人の協力で成り立っているのが分かる。(M)

● 事業のきっかけ

宅地開発による住宅が多くを占めるまちで、地域の伝統的なまつりや行事がなく、地域のつながりが弱いことが懸念されていました。そこで、阪神・淡路大震災後に落ち込んでいた地域の雰囲気を取り戻そうという動きをきっかけに、地域のつながりや伝統をつくっていくため、平成8年1月にこの餅つき大会が始まりました。

徐々に参加者が増えていく中で、平成15年からは、小学校の土曜登校日の授業として位置づけられて、児童が全員参加となり、今では1,200人が参加するとても大きな行事になっています。

● UDのポイント・地域特有の取組

当初は運営のノウハウや必要な道具もなかったため、大変な苦労がありました。道具を持っている方や餅つきに詳しい方など、地域の力・知恵を持ち寄って模索しながら何とか開催にこぎつけることができました。

今では、小学校の児童や先生はもちろんのこと、地域住民、小さい子どもから中学生、高齢者まで幅広い世代が参加し、世代を超えた交流が行われています。餅つきや餅丸め、昔遊び体験など全員参加型の行事となっています。

また、地域内にALT(外国語指導助手)の宿舎がある縁で、地域に住んでいる外国の方もこの餅つき大会に参加しています。国籍を超えた地域の交流が図られており、外国の方が日本の文化に興味を持つ機会となるだけでなく、そのことで子どもたちが伝統文化の価値を再認識できる機会にもなっています。

● 期待されるUDの効果

餅つき大会以外にも、運動会や夏祭りなども積極的に行われています。それらがきっかけとなり、顔見知りも増え、地域のつながりが広がっています。

今後は、マンネリ化することがないように、外国の子どもが通う学校とのタイアップ等、新たな取り組みも検討されています。

担い手の世代交代が必要など課題もありますが、世代・国籍にとらわれない地域のコミュニティづくりが今後も期待されます。



餅つき体験



おいしくつけました



昔遊び体験も(あやとり)

<左義長>

冬の伝統行事を取り入れようと、経験のある方を中心に、「左義長(とんど焼き)」も行われています。

ここでは参加者の安全を確保するため、消防署の指導を受けています。また、地域内にある病院の看護師の方が車いすを持参し、一日を通して待機されているなど、安全・健康面の配慮が行事全体にわたってなされています。



この度のふれあい餅つき大会は、高齢者、若者、小学生等地域住民が一堂に会する貴重な機会であり、そこでの交流によって「みんなにやさしい意識づくり」が醸成されたものと考えています。この事業を機会あるごとに紹介できればと思います。(K)